

V. 異なる作業での共通要因

一人・物・環境による事故要因

前章では、主な農業機械や脚立、はしごなど特に事故の多い農機具の主要な事故の形、事故様態について述べました。一方、「対面調査」から、異なる作業や農機具であっても共通の問題、課題、事故の形、事故様態があることが分かりました。「対面調査」から得られた、「人」、「物（農機具など）」、「環境」の共通原因について紹介します。

1. 人に関わる共通の事故要因

① ちょっとの間、でも危険は常在

いつもはしているトラクターの連結ロック。すぐ隣の田んぼだからと掛けずに、傾斜地でブレーキをかけて転落するなど、ほんのちょとの距離だから、時間だからといつもはしている安全対策を怠ったばかりに起こった事故。

② 重量物の運搬は分散して

重い物を、一気に運ぼうとして腰椎の圧迫骨折。自分の体力に合わせ小分けして運搬を。

③ 危険行動、いつもは大丈夫、がいつかは痛い目に

まわりの人から、「危ないからそのようなことはやめておけ」と言われながら、「俺が、いつ事故を起こしたことがある」と言っていて、ついに事故を起こした事例。

④ 2人以上の作業、コミュニケーションルールを

2人以上が作業に関わったり、相手の作業圏に入る場合、事前に「OK」や「ストップ」等の合図の仕方を決めておくことで防ぐことができた事故。

⑤ ついで仕事、別々に

コンバイン作業中、気になった雑草、コンバイン止めず降りて除草、途端にコンバインに引っかかった事例など。しっかり止めて、除草を。

⑥ 藁すべ1本、指1本

機械に垂れ下がる藁、作業に何ら支障も無いのに、つい手を出して、指を跳ねられた。

⑦ 木を切った後の動きは？

森林関係の人にとって常識的な伐採の仕方。特に切った後に木がどのような動きをするか想定せず、木が跳ねて事故に。

(1) ちょっとの間、でも危険は常在

前日、仲間と草刈りをしたが、約3mぐらいの刈り残しがあった。

翌日、10時の休憩時間に「ちょっと残りを刈ってくる」と、作業開始。1分も経たないうちに、右眼にパンパンと何かが飛び込んだ。

結局、チップソーのチップが2個右眼に飛び込み、失明。現在は義眼。

この方は、いつも草刈りの時厳重にフェースガードをするのだが、この時は「ほんのちょっと、3mくらいだから」と思いしなかった。



右目に刈刃のチップが2個、飛び込み、目が開けられなくなった。結局失明、現在は義眼を入れている

約3mほどの刈り残しを10時の休憩時間に、いつもは必ずするフェースガードをせずに草刈りを開始。1分も経たないうちに、右目に何かが飛び込み、目が開けられなくなった。

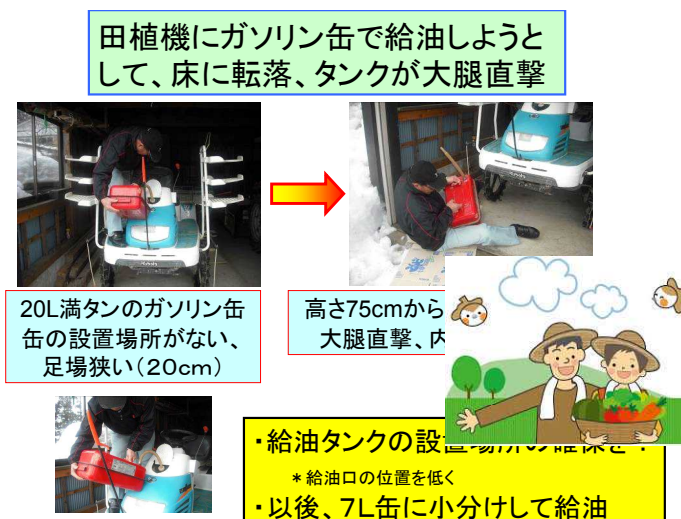
他にも、トラクター移動時にいつもしている左右のブレーキの連結ロックを、すぐ隣の田んぼだからとせずに、坂道を上がり、作業機の重さで、「ヒヒーン」状態になり、慌ててブレーキをかけ、片ブレーキで4m崖下に、トラクターもろとも転落したという事例も報告されています。

どんなに短い距離、短い時間でも、危険は同様に存在、確実な安全対策を

(2) 重量物の運搬は分散して

右の事例は、田植機に給油する際に、20Lの給油タンクを満タンにして給油中、重量を支えきれず転倒、大腿部を直撃打撲、治療期間2カ月間になったものです。

その後、7L缶と小さくし、さらに満タンにせず、何度かに分けて給油しているとのこと。



田植機にガソリン缶で給油しようとして、床に転落、タンクが大腿直撃

20L満タンのガソリン缶の設置場所がない、足場狭い(20cm)

高さ75cmから大腿直撃、内

・給油タンクの設置場所を低く
* 給油口の位置を低く
・以後、7L缶に小分けして給油

一気に持ち上げず、重量物は小分けにして、収穫物も大きなコンテナから小さなコンテナに

3) 危険行動いつもは大丈夫、がいつかは痛い目に

「危ない、危ないと言うが、いつ俺が事故を起こしたことがある」と言っているあなた。でも、いつかは痛い目に遭います。痛い目に遭ってからでは遅いのです。



かわいい子は、農機に乗せるな

2008. 8. 22: 午前6時20分頃・兵庫県
田んぼで、祖父(64歳)が孫の女の子(6歳)を乗せてトラクターで農作業中発進したはずみで転落。ロータリーに巻き込まれ死亡。

2012. 4. 8: 午前11時40分頃・茨城県
水田で、4歳の男の子が曾祖父(79歳)が運転するトラクターから転落してロータリーに巻き込まれ、死亡。

右の事例は、時々片手ハンドル運転をしていた。危ないとも思っていなかった。この時、ロープのついた杭を持ち、片手ハンドル。杭が運転席に落ち、拾おうとして、ハンドルが切れ、用水に転落。

いつもは、大丈夫だったのに～



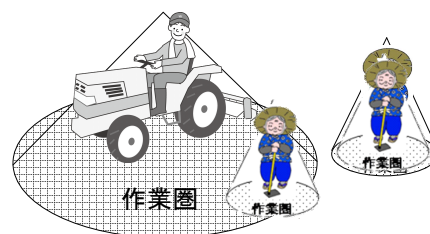
時々スコップを持ったり片手ハンドル運転。このときは、ロープの先に杭を付け片手ハンドル、その杭が落ちたので拾おうとして、運転を誤って、用水に転落。いつも大丈夫、がついに用水に転落、骨盤骨折、右大腿骨骨折、右第三指挫傷

(4) 2人以上の作業圏が重なるとき、必ずコミュニケーションルールを決めておく

お父さんが代掻きをしていて、おばあちゃんが「お茶、持ってきたよ」とトラクターが畦近く来たとき渡した。お父さんは、おばあちゃんはお茶を渡したら、もう離れてくれたと思い、トラクターを旋回。ところが、おばあちゃんは、畦にまだ居て巻き込まれ、死亡。

2人以上が作業に携わったり、行動範囲が重なるようなケースが考えられる場合は、必ずお互いの合図を事前に決めておくことが重要。

双方の作業圏・行動圏が重なる場合は



作業圏・行動圏が少しでも重なったら、コミュニケーションルールが発生

作業場面を想定しての合図の設定、合図の方法を事前に決める
* 農業機械は死角が多い、騒音が大きい

(5) ついで仕事は、別々に

主なる作業の途中、雑草が気になった、摘果残しが気になった、と手を出したりしての事故が起こっています。

右の事例は、SSでみかん園の農薬散布中、摘果の取り残しがあり、SSを走行しながら身乗り出し、足を出して取っていて、足がSSに巻き込まれた。約1tの車体の前輪、中輪、後輪に次々と押しつぶされた。

当然、忙しいので「ついでに」となったのですが、それぞれ、急がば回れ、別々にしたいものです。



(6) 藁すべ1本、指1本

—藁すべ1本垂れていても、機械には何のトラブルもないのに—

機械に垂れた、1本の藁。別に、機械が止まってトラブルになる訳でもない。ところが、つい気になって、手を出して、回転する機械に巻き込まれて、指が撥ねられた、腕が巻き込まれた、そんな事故が起こっています。

右の事例は、ハーベスターの排出部に垂れ下がっていた藁すべ1本をとろうとした事故です。藁が垂れ下がっていても、機械にはなんのトラブルもなかったのですが…



その他、畦で荒起こしを見ていたおじいさんが、畦際で旋回時に、ロータリーに垂れ下がっている藁すべが気になって、つい手を出して、腕が巻き込まれた事故。

乾燥機の昇降路から、乾燥機内に籾を排出する回転するスロワーに藁すべが一本垂れ下がっていて、つい手を出して、指を切断、等々。

(7) 切った木の後の動きは？

森林組合の方や、日常的に木の伐採に携わっている人々には常識とも言える伐採時の木の動き。

木の種類や大きさ、切り方などで、切った後、木がどのような動きをするか予測しながら作業を進めていきます。

ところが、一般農家は、伐採の経験が少なく、切ることに意識がいき、伐採前後の木の動きを予測することができません。また、それぞれの木の種類により、チェーンソーなどで切った後の跳ね方なども異なります。専門的な研修を受けての作業が求められます。



本来は、経験のある人に頼むべきですが、自分で切る場合、切った後の動きを想定しながら切らなければなりません。また、ヘルメットの着用も当然です。

